

平成 29 年度 図書館情報学海外研修助成報告書

知識情報・図書館学類 3 年次

遠藤 菜摘

1. 研修概要

研修テーマ: イタリア共和国における文書館と博物館の現状調査および日本の機関との比較

・研修期間: 平成 29 年 9 月 18 日～10 月 2 日

・研修国 / 目的地: イタリア共和国 / ローマ・フィレンツェ・ナポリ

・主な訪問先: 文書館: Archiv o Centra e de o Stato Archiv o d Stato d Napo など

博物館: MAXXI La Ga era deg Uffz Museo Archeo og co Naz ona e d Napo など

2. 研修目的

イタリア共和国は、世界でも極めて膨大な文化遺産を有する文化遺産大国の一つである。UNESCO による『世界遺産登録数』は文化遺産と自然遺産を合わせて 53 点にのぼり、全 195 カ国の加盟国中で最多の登録数を記録しているⁱ⁾。それらの遺産は、イタリアの豊かな風土や歴史に基づいているのであるが、その歴史や地理を概観すると、近代化の時期・南北に長い国土・地方の多様性など、様々な点で日本との共通点を見出すことができる。

そこで、今回の研修では、日本と類似した歴史的背景と豊富な文化遺産を有するイタリアの文書館および博物館に着目し、複数館への訪問視察・インタビューを行った上で、同国における両機関の現状調査ならびに日本における当該機関との比較検討を実施することとした。

3. イタリアにおける文書館・博物館の現状

現在、イタリア国内には 101 の文書館ⁱⁱ⁾と 4158 の博物館が存在するⁱⁱⁱ⁾。各機関は、国立の文書館・博物館を中心に文化省・文化活動省の管轄下にあり、ほぼ毎年統計調査が実施されている。文書館の特徴としては、機関の帰属先に応じて「国有」と「非国有」の二種類に分けられる^{iv)}こと、また州の規模にも依存するが、各地方によって館数にばらつきが見られる^{v)}ことなどが挙げられる。一方、博物館の特徴としては、文書館以上に地方での施設数のばらつきが著しいことに加え、館の種類が極めて多岐にわたること^{vi)}などが挙げられる。

ここでは、調査を行った全 8 館のうち、文書館・博物館をそれぞれ 2 館ずつ報告する。

4. 研修報告

4 1. 文書館 (Archivio)

a. Archivio Centrale dello Stato / 国立中央文書館

「国立中央文書館」は、1861年のイタリア統一以後のあらゆる中央官庁の文書を保存する国内唯一の中央文書館である。その敷地面積は 25 670 m²に及び、館内には "Sa a Stud o" と呼ばれるリサーチスペースが設けられているほか、広い敷地と館内の所蔵資料を活かした展覧会が盛んに実施されている。

b. Archivio di Stato di Napoli / 国立ナポリ文書館

「国立ナポリ文書館」は、文書量・敷地面積共にイタリア南部で最も規模の大きい文書館であり、その歴史は 1282 年 1816 年まで続いた「ナポリ王国」にまで遡る。所蔵資料は、王国時代の財政等に関する羊皮紙の資料(約 23 239 点)や地図資料(約 2878 点)、また 747 528 点を超える膨大なネガフィルム等から成り、毎年およそ 9 000 人の人々が来館している。

4 2. 博物館 (Museo)

c. Museo Nazionale delle Arti del XXI secolo / 国立 21 世紀美術館

「国立 21 世紀美術館」は、2010 年に開館した非常に新しい美術館である。イタリア国内で国立として運営されている唯一の現代美術館であり、展示室は "Arch tetto" と "Arte" の 2 セクションに分かれている。コレクションは、国内アーティストを中心に建築作品が約 135 000 点、美術作品が約 400 点収蔵されている。

d. Museo Archeologico Nazionale di Napoli / ナポリ国立考古学博物館

「ナポリ考古学博物館」は、例年 20 万人近くの観光客が訪れる世界で最も有名な考古学博物館の一つである。コレクションはナポリ近郊の古代遺跡・ポンペイから発掘された考古資料を筆頭に、古代の石彫や硬貨など約 250 000 点の資料からなる。館内には図書館と文書館も併設されており、事前の利用申請を行えば研究活動も可能である。

5. おわりに-研修を終えて

今回研修を通じて痛感したことは、それらの各文化施設を統括する「文化省」に相当する機関の設置が日本においても急がれるべきであろうという点であった。真の「文化立国」の建設には、国内のあらゆる文化資源を把握し、役立てることのできる基盤作りが不可欠であろう。今回得た経験や知見は今後の自分の研究に最大限活かしていくつもりである。最後ではあるが、今回このような機会を頂けたことに心より感謝申し上げる。

i UNESCO "World Heritage List Statistics" World Heritage <http://whc.unesco.org/en/list/stat> (参照 2017 11 1)
ii "Tavola anni 2010 2015" Dati Storici (2010 2015) Ministero dei beni e delle attività culturali e del turismo 2016 [http://www.statistica.beniculturali.it/rilevazioni/archivi/ARCHIVI2015/Dati Storici Archivi 2010 2015.pdf](http://www.statistica.beniculturali.it/rilevazioni/archivi/ARCHIVI2015/Dati%20Storici%20Archivi%202010%202015.pdf) (参照 2017 11 01)
iii Istat "I MUSEI LE AREE ARCHEOLOGICHE E I MONUMENTI IN ITALIA" Istat [https://www.istat.it/it/files/2016/12/Report_Musei.pdf?title=Musei e monumenti in Italia](https://www.istat.it/it/files/2016/12/Report_Musei.pdf?title=Musei%20e%20monumenti%20in%20Italia)
iv マリア・バルバラ・ベルティ 湯上良(訳) "第二章 イタリアのア カイブ行政・組織" ア カイブとは何か 石板からデジタル文書まで イタリアの文書管理 法政大学出版 2011 p 38 39
v Ministero dei Beni e delle Attività Culturali e del Turismo "Tavola 2 Locali per tipologia ARCHIVI DI STATO" Ministero dei Beni e delle Attività Culturali e del Turismo 2017 08 02 [http://www.statistica.beniculturali.it/rilevazioni/archivi/ARCHIVI%202015/AR TAVOLA2 2015.pdf](http://www.statistica.beniculturali.it/rilevazioni/archivi/ARCHIVI%202015/AR_TAVOLA2_2015.pdf) (参照 2017 11 02)
vi Istat "I MUSEI LE AREE ARCHEOLOGICHE E I MONUMENTI IN ITALIA" Istat [https://www.istat.it/it/files/2016/12/Report_Musei.pdf?title=Musei e monumenti in Italia](https://www.istat.it/it/files/2016/12/Report_Musei.pdf?title=Musei%20e%20monumenti%20in%20Italia)
19%2Fdic%2F2016 Testo integrale.pdf (参照 2011 11 01)